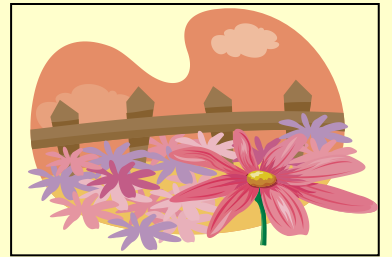


埼玉労山

▶埼玉県勤労者山岳連盟機関紙 発行:武笠真次
 〒336-0011さいたま市浦和区高砂4-1-5ふじビル2階 編集:澤藤俊昭
<http://www.justmystage.com/home/tozans/index.html>
<http://www.justmystage.com/home/tozan/>

- 1) 第4回岩ネット 小川山、他
 - 2) 登山学校 9月講座「地図の読み方」を終えて
 - 3) 加盟団体の動き、山の雑記帳、他
 - 4) 理事会報告、お知らせ、他
- 埼玉救助ヘリ有料化に反対を！

労山カレンダー 残り僅か！
 安全登山講演会 参加者集約中
 早目に申し込みをしよう！



一日目(9月11日)
 7時西浦和発、12時
 廻り目平着 幕営準備。そ
 の後、6名で弟岩の「謎の
 ルート」へ。10位の高
 さでしようか。明日のため
 の足慣らしですが、真ん中
 辺りで立ち往生するよう
 なところがあります。無事テ
 ラスまで上がったところで
 ふり返ると廻り目平と背後
 にそそり立つ岸壁が一望で
 き、緊張がほぐれます。「謎
 のルート」の後は左側下部



二日目(9月12日)晴
 早朝、女性二人は金峰山
 へ。8時30分、4人でガ
 マルートに向かいます。他
 パーティも多く集まってい
 てガマストラブのとりつきは
 大変な賑わいです。軽部・
 貝田組、水谷・井上組でペ
 アを組み、まずガマストラブ
 で岩に慣れます。混雑でロ
 ープが交錯する場面も。隣



第四回 岩ネット 山行報告
 九月十一日(土)〜十二日(日) 快晴
 奥秩父・小川山
 浦和山の会(六名)わらび山の会(一名)

今回は岩ネット参加2
 回目です。事前に「アルパ
 インクライミング (保科
 雅則著)」と「フリークラ
 イミング (北山真著)」を
 読んでみましたが理解でき
 ないことも多く、読むほど
 に気持ちがいぼんでいきま
 す。こんな時は、道具を買
 うのが一つの方法です。そ
 こで「下降器」を購入しま
 した。タ、タツ、高い…。
 でもこれに命がかかるのだ
 と思うと値切るわけにはい
 きません。今回はこの道具
 をマスターすることを目標
 の一つに掲げました。

の壁面を登りました。こち
 らのルートは名前がありま
 せん。登り始めから3分の
 2がおそろしく難しい壁で
 す。進退窮まりテンション
 をかけてもらって休む場面
 もありましたが、縦エッジ
 でのサイドプルを会得し、
 なんとか登り切りました。

のパーティのリーダーとお
 ぼしき人が上にいる人に叫
 びます。「おうい！この『若
 い衆』が行くまでストツ
 プ！」。「若い衆」とは私
 のことです。が、彼、私を
 もう一度見直し白髪頭に気
 付いたのか「『このかた』
 がいくまでストツプ！」。
 なにもわざわざ言い直さな
 くて…、「若い衆」にし
 てくれよ、と言いたい
 のをこらえて、指がかかる
 部分が少ない岩肌をパーミ
 ングで手のひら全体で押し
 つけるようにして登ります。
 なるほど、この姿はガマが
 這いつくばっているように
 見えるかもしれない。樹
 林をぬけて2ピッチ目、か
 なり長いルートですが1ピ
 ッチで登ります。リードは
 軽部さん。最後の凹部は、
 ふつうは両側の壁を足の支
 点にして登るところだそう
 ですが、そんなことを考え
 る余裕などない私は、強引
 に壁の上に足をかけてよじ
 登りました。見ていた人が
 「ああいう登り方もあるん
 だあ。」と感心したのか、
 あきれたのか…。技術がな
 いと無理をし、体力を消耗
 していききます。3ピッチ目
 は登り詰めるところが垂直
 に切り立っていました。が、
 なんとか登り切ることがで
 きました。高度感満点の景
 色で、向かい側にはマラ岩

がそそり立っています。そ
 んな展望に後押しされて、
 妙な自信がわいてきました。
 ですが、さつきから両足の
 親指が悲鳴をあげています。
 クライミングシューズを脱
 いで、しばし解放。最後の
 ピッチは楽に登り切ること
 ができました。せまいピー
 クで、すぐさまセルフブレ
 イをとります。周りの岩峰
 群と犬の岩をはじめ奇岩群
 が目に飛び込んできます。
 てっぺんから向こう側をの
 ぞき込むと垂直に切れ落ち
 ている目がくまみまします。
 このルートの最後は、この壁
 50mを懸垂下降で下りま
 す。いよいよ下降器デビュ
 ー。からだを空中に押し出
 す時の気分は何とも言えま
 せん。下から軽部さんが声
 をかけてくれます。みるみ
 る高度を下げて無事ランデ
 イング。井上さん、水谷さ
 んも降り、ロープを回収し
 樹林の中を廻り目平に向か
 いました。達成感がじんわ



りとの心の中に広がりました。
 軽部さん、水谷さん、井
 上さん、ありがとうござい
 ました。長岡さん、木村さ
 んお世話になりました。そ
 して私達の岩山行とキャン
 プ生活をがっちり支えて下
 さった軽部夫人に心から感
 謝します。次は榛名黒岩。
 期待が広がります。

わらび山の会…貝田 久

第5回 岩ネット 予定

期 日 10月24日(日)
 場 所 榛名・黒岩
 内 容 クライミング技術

問合せ 軽部 章(浦和山の会)
 090-5414-9506 FAX048-863-2685



「地図の読み方」を終えて
 9月4日(土)
 テキストに沿って、地形図の基礎知識、コンパスの使い方について学びました。
 次に、1/25000の地形図(武蔵御岳)を使って、概念図・断面図の作り方を学びました。磁北線をひき、等高線を読み取る、山頂を見つける、尾根と谷を見分ける等、班ごとに作業しました。
 理解できたかどうか、中学校の入試を使ったテストにも取り組みました。
 登山学校の必携用品として購入したものの、アクセサリーのように、ただ持っていただけのコンパスが使えるよ



登山学校 第4回
 天気図の見方

9月4日…机上講座
 カルタスホール
 37名
 9月5日…実技講座
 奥多摩・高水三山
 37名

うになり、とても嬉しかったです。「登山の学校で勉強している！」という気持ちが高まりました。

9月5日(日)

奥多摩 高水三山にて
 軍畑駅↓高源寺↓高水山↓
 岩茸石山↓惣岳山↓御嶽駅

班ごとに分かれ、運営委員とともに、各チェックポイントで地形図を読み、コンパスを使って現在地や進路の確認を行い、地形図からさまざまな情報を読み取れるよう、指導を受けました。

「もしここで地形図とコンパスを持っていなければ、道標に頼って違う道を行ってしまう」というポイント



では、今まで簡単なルートマップだけを頼りにしていた自分には、とても勉強になりました。また、反省しました。事前に、暑さ対策について注意をいただいていた通り、気温が高い季節の登山は、水分塩分・栄養補給やペース配分、装備など、体調管理が非常に重要であることを実感しました。同時に、山の中の爽やかな風は何ものにも換えがたいものだ、と感じました。
 事前にチェックポイントの表示などをご準備いただき、運営委員の皆様方には感謝申し上げます。
 登山学校 十五期生
 清水美緒 記

「地図の読み方」を終えて
 9月4日(土)
 地図読みの机上講習を行いました。自分で地図を読む能力を身につけ道標に頼らない山歩きができるようにすることをめざす学習でした。内容は、
 一、地図の効用等
 二、地形図の基本的な知識
 三、地形図とプレートコンパスの使い方、磁北線を引く
 四、概念図、断面図の作成
 地形図の周りに書いてある「整飾事項」についてや、

真北と磁石の針が指す北は同じではなく、地形図を読むためには、磁北線を引くことが必要なことなど、今まで知らなかったことを多く学びました。
 午後の講習で、明日の実技で行く高水三山の断面図を作成しました。
 各ポイントの標高を知るため等高線を数えたり、距離を測ったり、慣れないので大変な作業でしたが、断面図が出来上がり、山の形が浮かび上がったときには、感動しました。そして、明日歩く山の傾斜などが、断面図から見えてきました。

9月5日(日)

実技講習は、奥多摩の高水三山でした。班ごとに青梅線の軍畑駅でコンパスを使い進路の確認をしてスタートしました。
 この日は、残暑厳しく、初めの一時間の舗装道路歩きでは、照り返しの強さに参りましたが、暑さ対策も、講師の



皆さんや、受講生の皆さんから今までの講座で学んだものが多くあり、各自それを生かしながら熱中症に気をつけて行われました。樹林帯に入ると、少し涼しくなりほっとしました。

地形図上の送電線や堰、寺院の記号を目安に自分の位置を確認しました。また、チェックポイントでは、班毎のスタッフに地形図の読み方を教えていただき、実際の地形と地形図を照らし合わせたり、コンパスで進路の確認をしたりして、今、地形図のどこに居るのかがよくわかり、まわりの景色と地図が一致する楽しさを感じました。等高線の間隔が狭くなっているところでは、これから急な登りや下りがあること、それが何メートルぐらい続くのかということがわかり、歩きやすいと思えました。それから、等高線で尾根筋と谷筋を見分けて、どの尾根のどの場所が自分があるのかを知ることが面白かったです。



『地形図のこの尾根筋は、これかな』と読んでも読み違えていることもあり、地図読みの難しさを感じました。標高がわかり、正しく尾根筋と谷筋が読めれば、自分のいる位置がわかり、安全に登山できるだろうと思えました。最高峰の岩茸石山(793m)では、登山学校第2回で登った棒ノ折山を遠くに見ることができました。登山学校の皆さんと登った山を、皆さんと眺められたことはうれしいことでした。今回、地図読みを学んだことで、山に行く前道筋を想像したりする楽しみを知りました。それが安全な登山につながることもわかりました。まずは、正しく読み取れるよう、地図読みの経験を重ねたいと思います。運営委員の皆様には深く感謝いたします。
 浦和山の会
 長岡昌子 記



加盟団体の動き

西部ブロック 所沢ハイキングクラブ

所沢ハイキングクラブ(所ハイ)は1970年に「ハイキング」を指すクラブとして所沢労山から独立して誕生、今もその伝統を引継いでいます。今年は40周年にあたりそれを記念する祝賀会を9月12日に、来賓、元会員、現会員 計69名の参加を得て開催しました。

初めに、井芹全国連盟副理事長に「安全登山をめざして」と題する講演をお願いし、最新の役立つ内容を全員揃って学びました。

祝賀会では来賓や元会員からのご挨拶をいただいた他、「所ハイの最近10年を通しての記録」の発表があり、会山行回数が多かった5人、会山行リーダー担当回数が多かった5人、清掃ハイク毎回参加者2人、山行回数が多かった山などを報告、都度歓声が出て盛り上がりました。ご褒美は榮譽を讃える拍手と壇上で記念写真のみと簡素に済ませました。

会を継続していくことは昔も現在も容易ではありません。この10年を振り返っても苦しいことがあり、会長・役

員の尽力と会員の協力により、我慢強く、また工夫して問題を乗り越えてきました。どの会でも同様と思いますが、会報1冊の発行には、原稿を提出する会員、そして編集・印刷・送付を担う編集委員による大きなエネルギー・時間が要です。所ハイの会報は484号まで到達していますが、各号でのたゆまない貢献によるものです。

所ハイの会員数は、昨年度以降に16名の新入会員を迎えることができ、現在56名、平均年齢は61才。新しい人の山への意欲は高く、ベテラン会員の、新人を育てよう、山行機会・学習機会を多く提供しようとの姿勢がそれを支えており、あいまって、山行、例会にも活気が増えています。

ホームページは5年前に開始、内容は山行時のスナップ写真を中心とし、山行の様態をタイムリよく掲載しており、山行に参加できなかった人も、山行の楽しさを確認しています。新入会員の多くはこれを見て入会されています。

40周年記念として記念誌を発行し、オリジナルのスタンプバック製作を行い配布し

ました。10月16・17日にはバスにて尾瀬方面への記念山行を行い、記念行事すべてを終えることとなります。祝賀会の模様は所ハイホームページご覧いただけると幸いです。



集合記念写真



山の雑記帳

「蜂刺され」を体験 注意を!

たまに山で蜂に襲われた記事を目にしますが、先日実際にスズメバチらしきものに刺されましたので、その体験報告です。

場所は山梨県小淵沢。1周1.4キロのクロスカントリーコースを4周走り、最後の1周の時に左足の足首に激痛が走りました。刺された直後は膝を突いてしまうほど痛かったのですが、あと1周なので我慢して走ってしまったところ、その10分後に…

- ・全身に鳥肌が立つ。
- ・顔と頭がかゆくなり、全身が赤くなる。
- ・全身がピリピリする。
- ・走り終わっているのに呼吸が元に戻らない。

周りの人が異常に気づき、車で病院へ搬送してもらおう。搬送中…

- ・目の前が白くなり物の輪郭が見えなくなる。(1分程2回)
- ・血圧の低下。(一人では歩けません)

病院に着いてストレッチャーで手当て室へ。薬剤を入れた点滴を行うが状況は良ならず、更に2本点滴を受けてやっと落ち着きました。もちろん左足は倍ぐらいに膨れています。

当日は黒のシューズに黄色の靴下。先頭集団の4人の内、私だけ襲われました。スズメバチは黒と黄色が良くないとか…。アナフィラキシーショックで、2回目はもっと危ないとか…。

今回は不意に刺されてしまいましたが、山で蜂を見かけたら、白いタオルなどを被って静かにその場を離れると良いそうですよ。

ハイジアルペンクラブ 木阪 康弘

歩行技術講習と紅葉ハイキング

ハイキング委員会

会 場	赤城・鍋割山
日 時	11月3日(文化の日)
集 合	箕輪駐車場 午前9時30分
	* JR前橋からバス利用の場合
	赤城大沼・ビジターセンター行き
	前橋駅前 8:45 発~箕輪着 9:20
日 程	9:30~9:45 ストレッチ、資料配布、
	9:45~10:00 上り歩行技術説明
	10:00 出発
	10:40 荒山高原で
	各自の足運びチェック
	12:00~12:30 鍋割山頂上、昼食休憩
	12:30~12:45 質疑応答
	12:45~13:00 下り歩行技術説明
	13:00 出発 下り歩行技術チェック
	14:30 下山
	14:30~15:30 膝痛トレーニング体験報告
	質疑 (担当 久保典子)
	15:30 解散
	*バス利用は 16:20 箕輪発 前橋駅行き

*人数が北部以外15名位の場合は、中型バスの検討も考えています。

【参加申し込み】

埼玉県勤労者山岳連盟	ハイキング委員会
佐藤久子	090 5305-6320
澤藤俊昭	048 296-9882

理事会報告

第七回理事会が九月二十九日(水)県連事務所で十三名の出席で行われました。

*委員会等活動報告・計画

【全国連盟活動】

・関東ブロック役員交流会

・全国遭難対策代表者会議

他、海外・自然保護集會等

【県連全体活動】

【事務局】

・労山カレンダー申し込み

第一次締切 十月末に発送

【機関紙】13号発行準備中

委員会活動等原稿の協力を。

【組織】

・組織活性化の素案を検討中。

【女性】田部井さんの講演に8名参加(委員会5 二郷3)

【ハイキング】

・9/18-20 全国ハイキングリ

ーダー学校(湯檜曾)参加2名

・11/3 群馬・赤城鍋割山歩

行技術講習ハイキング参加者

募集中 現在20名位か

【自然保護】

・9/11~12 第13回自然保護

講座(塩見岳付近)佐藤参加

・11/6~7 関東ブロック自然保護

交流集會(常陸太田・鍋足山)

主管茨城労山 加納参加予定

【教育遭難対策】

・10/23 第12回全国遭難対

策担当者会議 2名参加予定。

【救助隊】

・10/24 榛名黒岩

・9/6 役員会

・10/17 岩場搬出訓練(名栗)

【登山学校】

・9/27 11/11 運営委員会

・第5回「岩登り」10/2~3

実技・日和田山

【岩ネット】・第6回「天気

の見方」11/6 机上:カルタス

ホール

・11/7 実技:浅間山・石尊山

【ホームページ】

・委員会、県連行事予定等の

記事掲載したい。担当者の協

力を! メール相互通信等

【岩ネット】9/11~12 小川山

10/24 榛名黒岩

【財政】

全国連盟費納入、役員半期交

通費、委員会活動費等清算、

他

【ブロック活動】

西部:10/7会議、11/21 大平

山交流ハイク計画。

南部:9/16/10/20会議 11/14

岩櫃山交流ハイク

中部:11/21 地図読み山行

北部:11/3 ハイキング講習

合流

議題

①安全登山講演会

「病気に負けない健康登山」

期日 11/28 (日)

午後2:00~

場所 西与野

モニター

参加費 ¥500

定員 120名、

一次集約10/末、

最終集約 11/20

*当日担当は後日

に決定

②関東役員交流会

の報告から...

③その他

・役員名刺 小松さ

ん作成中

・印刷機 メンテ後

搬入(備品・紙代

負担を)

お知らせ

① 第十五回全国全国登山

自然保護集會

期日 11月27日(土)13:00~

11月28日(日)12:00

場所 フジ・マン・奥多摩園

主催 全国連盟

主管 東京都連盟

【記念講演】『生物の多様性の

保全と登山者の役割』

小川潔 東京学芸大准教授

その他 基調報告等 交流

② 関東ブロック

自然保護交流集會

期日 11月6日(土)13:00、

11月7日(日)12:00

場所 茨城・常陸太田市鍋足山

主管 茨城県連

*問合せ

自然保護委員会 加納

048-201-2270

携 090-3130-6993



講師の著書
「病気に負けない健康登山」
講演会場で特別価格で販売予定

山岳遭難者 救助へり 有料化

埼玉県議会、条例成立か?

7月の埼玉防災へりが山岳救助中に墜落した記事は、皆さんも記憶に新しいと思いますが、事故後、埼玉県は隊員や操縦士や医療・山岳関係者等で委員会を発足させ、山岳救助での防災へり出動に関してのガイドラインを策定し、指針を明文化しようとしている中で突如の県議会での条例提案で成立しそうな状況です。(10月15日 定例会最終日で可決か?)

もし可決されれば費用負担を求める条例は全国初となり、今後こうした条例は全国規模に波及して行く懸念もあり、山岳活動を続ける私達にとっても深刻な問題と考えます。

確かに、山岳遭難は増加傾向で警察や防災へりでの山岳救助件数も大幅に増え約2千件近くとされています。しかし、いくら費用請求を可能にし安易な入山に警備を与えるとしても、私達は遭難事故に対しては安全に配慮し事故を未然に防ぐ努力をしており、費用負担の詳細や条件の検討のないままでの条例可決には、断固として反対して行きましょう!

(文責) 機関紙担当 澤藤 俊昭

埼玉県勤労者山岳連盟・安全登山講演会

健康増進のための登山

医学的見地からのポイント

講師 群馬大学大学院医学系研究科麻酔神経科学部門
教授・医師 齋藤 繁先生

実施日 2010年11月28日(日)

受付 13:30 (講演 14:00~15:30)
(質疑応答含め16:00終了予定)

会場 西与野コミュニティホール 定員120名
締切 申込順
埼京線・与野本町下車、徒歩20分
参加費 500円

＝参加申し込み＝

クラブや会単位で先着順120人
一次集約 10月末 最終集約 11月21日
埼玉労働山事務局 木阪
メール kisaka-k.7@tbbt.com.ne.jp
FAX: 0480-33-7895

講師の著書
「病気に負けない健康登山」
講演会場で特別価格で販売予定

期日 11月6日(土)13:00、
11月7日(日)12:00
場所 茨城・常陸太田市鍋足山
主管 茨城県連
*問合せ
自然保護委員会 加納
048-201-2270
携 090-3130-6993



【編集後記】 本格的な秋の季節を迎え、山々からは紅葉の便りも聞かれる今日この頃!暑かった夏の影響か、紅葉は10日程遅れているものの例年になく綺麗との事ですが、暑過ぎた夏は実りの秋にも影響を及ぼし、昨年に比べ米の出来も悪かったらしく、秋田から送られて来た米は質が劣るものでした。野菜のレタスやネギ・白菜等でも生産量が大幅に減って高騰しているようで、隣の韓国ではキムチ用の白菜が高騰しており緊急輸入するほどに不足していると言いますから驚きです。(これから鍋の季節というのに困ります~!)
また、昨年は新型インフルエンザの流行で中止が多かった文化祭や体育祭等の行事も、今年は開催する所も多く準備に大忙しです。これから迎える本格的な秋山の季節!深まりゆく秋を満喫してみたいと思いますが……。 (澤)